

南方氣象豫報資料 第一輯

比 律 賓 前 線 論 撮 要

マニラ氣象臺次長 チャールズ・イー・デツペルマン原著

臺北帝國大學助教授 小 笠 原 和 夫 解 說

I. 緒 論

本論文は比律賓氣象學大鑑等と稱す可きものではなく、又、地域も全亞細亞を包含せずして、唯比律賓群島及びこれを環る一帯の地方即ち西太平洋、南支那海方面に於ける氣流狀態、前線位置の一年を通じての移動特性、前線に沿ふて發生移動する低氣壓、颶風或は颱風等に関する撮要的記述をなさんとしたものである。これと聯關した精密なる雲型分類、異質氣塊及前線特有の天氣、上層氣流の移動、完全なる天氣豫報法則或は颱風機構に関する詳細な敘述に關しては、總て、此を他日に譲る。斯くして、本論文の取扱ひ範圍は明確なる限定を受けてゐるのであつて、唯單に將來の計畫に對する撮要であり緒論であるに過ぎないことを銘記され度い。然し乍ら、本論文は夫が、單に撮要であるといふ故に、興味渺きものとは云へない。或は、他の學者により、此の文獻が動機となり、本問題を更に深く攻究せんとするよすがともなるであらうし著者も亦將來の研究により、本論文の内容に對する若干の變更が加へられる可きを期待してゐる。蓋し凡ゆる開拓の事業に對しては當然のことであり、著者のこの論文内容は、或は生硬未熟のものとの批評を受くることもあらうが、著者一個人で、數年、數十年の長きを獨力で努力するよりは、本問題解決に對する協力者を得て完成の期を早め、若くは、著者のこの開拓の初一念を遙かに超えた偉大なる研究の世に現れんことを期待しつゝ、敢て之を公けにする次第である。

本論文中に述べられてゐる著者の基本的見解は、未だふた葉のまゝではあるが、既に次の諸論文の中に公表せられてゐる。

本論文に於ては前線を寒氣、暖氣の二つの前線のみに規定しやうとはしない。然し乍ら、一般的に、次のことだけは明確である。即ち、北方から南下し來る氣塊は熱帶海洋性氣塊よりも、更に、赤道氣塊よりも寒冷である。然し乍ら、熱帶海洋性氣塊と赤道氣塊の關係溫度に就いて云ふならば、高層狀態か如何にあらうとも、少なくとも比律賓群島地方の地表面に關する限り、兩

- 1) Monthly Weather Review, 1933, vol. 61, pp.210, 284-285, 313, 338. Washington, D. C.
- 2) Manila Harbor Board Annual, 1934, pp. 25-30. Manila, P. I.
- 3) The Upper Air at Manila, Publication of Manila Observatory, 1934.
- 4) The Mean Transport of Air in the Indian and South Pacific Oceans, Manila, Bureau of Printing, 1935.